

# 忙 申 閑

「観光立国」いい響きである。「ビジットジャパン」「おもてなし」結構なことではないか。テレビでは外国人観光客が、いかに日本が素晴らしい国かを褒め称え、「絶賛」「驚嘆」という言葉が見出しに踊る。街には外国語が飛び交い、心齋橋はさしずめミニ上海の様相を呈している。京都では外国人観光客の数が増える一方、国内観光客の数は漸減しているとの報道もある。静かな街に住みたい…。そう思うのは贅沢なことだろうか？

なぜ今観光立国なのだろうか？ 訪日外国人の数が増加したのは、彼らが日本の魅力に気付き始めたからではない。政府がビザ発給の要件を緩和したからに他ならない。ではなぜ訪日しやすくしたのだろうか？ 答えは簡単である。日本のカネまわりが悪くなったからである。そもそも外国人に観光に来てほしく

ないと思っている国では、ビザ発給のハードルを高くして入国に制限をかけている。国内だけでそれなりに潤っている国ではその傾向が高い。日本も以前はそうだったのに、ずいぶん貧乏な国になったもんだ。観光熱の高まる中国では、少数民族が生計を立てるべく、普段着ない民族衣装を着て、漢人観光客の前で伝統舞踊を披露するようになったという。祇園では花街を歩く舞妓さんにしつこく付きまとう外国人観光客に頭を悩ませている。我々の生活は見世物などではない。

いつぞや見た子ども向け人形劇の情景を思い出した。「チェブラーシカ」という古い作品にワニが出てくる。日中は動物園でワニとして檻の中で暮らしているのだが、閉園時間になると二本足で立って、更衣室で服を着て、自宅アパートに帰り人間と同じ市民生活

# 観光立国って何やる？

広報委員会副委員長 堀井 孝容

を送るのである。観光業に就いているか否かにかかわらず、外国人観光客から好奇の目で見られ、時折被写体になることを要求されるのは、人間から鑑賞の対象としてみられる動物園のワニに他ならないのではないか…。

この話を銀行員である欧州の知人に見てみた。すると意外な答えが返ってきた。

「そのワニの話なら私も知っています。でも動物園でワニとして振る舞うことに何の問題があるというのですか？ あなたは日本のキモノを持っていますか？ 日本の伝統舞踊を踊れますか？ 観光というものは、自らの伝統を見つめ直す機会にもなるのです。あなたはオペラやバレエの俳優達を動物園のワニだと思って見えていますか？ 違うでしょう？

人間には各々個性と特技があります。それらを生かして職業としているのです。仕事を

する時、人は私生活から離れて『ワニ』として振る舞い、職業を遂行する必要があります。私も銀行員として時に『ワニ』として振る舞います。あなたも医師として働く時は『ワニ』になっていると思いますよ」

目から鱗が落ちたような気がした。日本人は外国人、特に欧米人からどのように見られているかを、明治以来ずっと気にしてきた。卑屈にも傲慢にもなる必要はない。ありのままの日本を見て帰ってもらおうじゃないか。ただし彼らからのご指摘には、耳の痛い話にも時々耳を傾けよう。テレビが言うように、日本人は決して「スゴい」民族でも何でもないのだから。